令和7年度 第4回柿崎区地域協議会 次第

日 時：令和7年7月15日（火） 午後6時30分
場 所：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名

4 自主的な審議

- (1) 柿崎区地域協議会 各委員会の取組状況について 資料 1 ～ 資料 3
- (2) 団体との懇談結果及び自主的な審議事項のテーマについて 資料 4

5 その他

(1) 会議の開催日程について

① 第8回スポ×まちプロジェクト

日 時：令和7年7月22日（火） 午後6時30分
場 所：柿崎コミュニティプラザ 3階 市民活動室

② 第5回柿崎区地域協議会

日 時：令和7年8月19日（火） 午後6時30分
場 所：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

6 閉 会

第 7 回スポ×まちプロジェクト 会議記録

日 時	令和 7 年 6 月 10 日 (水) 18:30~19:30	出席者	佐藤 (昌) 委員長、小関委員 坂木委員、滝澤委員、山川委員
場 所	柿崎コミュニティプラザ 3 階 市民活動室		
記録者	佐藤 (昌) 委員長	欠席者	なし
標 題	意見交換会の振り返りと意見、考えの整理、分析		
<p>5/28 に実施したかきざきスポーツクラブに所属しているスポーツ団体(3 団体)との意見交換会を振り返り、そこで得られた意見、考えの整理、分析を行いました。</p> <p>1 意見交換会の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前提条件の説明に時間を割いてしまった。参加者が前提条件をある程度理解したうえで参加できるように、協議会の活動や自主的審議事項のテーマについての簡単な説明文の作成を検討したい。 ・意見の中で、事務局体制が整っているか否かで、活動継続の難易度が異なることを把握できた。 <p>2 意見交換会で得られた意見、考えの整理、分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会で得られた意見、考えを委員で話し合い、まちづくりに関わる人の鍛える必要があるスキル表のどこに当てはまるか整理、分析した。 <p>3 主な意見 (ポジティブ意見は○ ネガティブ意見は×)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テニス協会という強力な事務局体制 (現場対応力) × 後継者がいない (ネットワーク力) × 周知するためのシステムが弱い (表現力) × 自分たちが使える補助金がどれなのか直感的に分からない (プランニング力) など <p>※ 今回の協議によって、事務局体制が整っているか否かで活動継続・拡大の難易度が異なるため、将来の事務局になりえる団体との意見交換会を行うための準備 (アポイント、当方のプロジェクトの説明など) を行います。 内容は、事務局になるために必要だと思われる条件、現状の課題の把握などを予定しています。</p> <p>4 第 8 回スポ×まちプロジェクト会議の開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 令和 7 年 7 月 22 日 (火) 午後 6 時 30 分 ・会場 柿崎コミュニティプラザ 3 階 市民活動室 			
以 上			

第 9 回ネットワーク柿崎 会議記録

日 時	令和 7 年 6 月 17 日 (火) 19:30~20:30	出席者	佐藤 (達) 委員長、吉井会長 金子委員、蓑輪委員、 佐藤昌貴委員長 (スポ×まちプロ ジェクト)
場 所	柿崎コミュニティプラザ 305~307 会議室		
記録者	佐藤 (達) 委員長	欠席者	石田委員
標 題	取り組み計画の進め方について		
<p>■第 8 回ネットワーク柿崎の協議で挙げた取組計画 2 案について、スポ×まちプロジェクトの佐藤昌貴委員長にも参加いただき、内容共有と具体的な進め方について意見を出し合った。</p> <p>1 協議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柿崎まちづくり振興会や観光協会など、柿崎区の情報を発信しているホームページが既にある中で、ネットワーク柿崎がイメージしている SNS を活用して色々なリンクに行ける「柿崎ポータルサイト」を個別に立ち上げ、運用する (案 2) は無理があるのではないかと思う。 ・スポ×まちプロジェクトや米山薬師を守る会としてもイベントを告知する手段として使えるものであってほしい。しっかりとした仕組み作りが必要と思う。 ・地域独自の予算事業として申請するにしても補助率の上限が 7/10 のままでは残りをどう工面するかも課題である。運用面や継続性も考慮すると、やはりまちづくり振興会が運営できるような仕組み作りを考えていくのが最適ではないか。 ・上越市 (総合政策部 地域政策課) が現在検討している「地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案等」の中に、今後の検討スケジュールが記載されている。検討の視点には、地域の団体や総合事務所及びまちづくりセンターも含まれ、令和 7 年度に制度設計、令和 8 年度に新制度に基づく予算要求、定員要求 (必要な人材の配置)、市民/団体への周知、令和 9 年度以降に新制度に基づく事業実施というスケジュールになっている。この制度設計にネットワーク柿崎の構想をのせるように進めていってはどうか。 <p>2 今後の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越市が「地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案等」の令和 7 年度に計画している「制度設計」に、地域のネットワーク構築に向けた検討を取り入れてもらえるように活動を進めていく。 <p>3 第 10 回会議の開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 未定 ・会場 未定 <p style="text-align: right;">以 上</p>			

第 7 回米山薬師を守る会 会議記録

日 時	令和 7 年 6 月 24 日 (火) 19:00~20:50	出席者	中村委員長、小出委員 佐藤 (ま) 委員、滝澤委員
場 所	柿崎コミュニティプラザ 3 階 市民活動室		
記録者	中村委員長	欠席者	小山委員
標 題	☐ 柿崎山岳会の活動に同行したことにより得た情報の共有について ☐ 意見書作成の準備について		
<p>標題にある 2 点について、協議を行いました。</p> <p>1 協議内容</p> <p>(1) 柿崎山岳会の活動に同行したことにより得た情報の共有について</p> <p>①山岳会員との会話の中で聞いた意見として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山道を現状のように維持する必要はないのではないか、あえて整備しない山もある。 ・山岳会が行ってきた一つ一つの活動は、見れば分かるように細かく、記録に残しておく。 ・「新しい組織を作るべき」という意見もあるが、現状では無理。有償でボランティアを募る方法が望ましい。自分たちも協力する。 ・米山薬師を守る会で、登山道や山頂施設の調査を行ったことはあるのか？ ・ファンクラブのようなものを想定していると聞いた。早くそのシステムを作り、米山愛好の輪を広げてほしい。山頂避難小屋や下牧ベースなどに QR コードを置いてはどうか。 <p>②今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳会が解散しても、今後しばらくは山岳会のメンバーの協力を得ながら、募ったボランティアに技術、知識を継承していく必要がある (山頂トイレの組立作業では、柿崎山岳会の人たちがほとんどの作業をこなしていたように見えた)。 ・ボランティアを募るには、総合事務所あるいは観光協会に公式 LINE アカウントを立ち上げ、発信をしてもらう (頸城区のジモ活 Base の実務担当者の協力が得られる見込み)。 ・ボランティアは、有償にしないと集まらない。 ・当面はボランティア参加の作業時の指揮は、総合事務所か観光協会が行う。 <p>③協議中に出た意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS で発信し、仮称：米山ファンクラブのようなものを立ち上げる。 ・ 米山に関する資料を集積する (貴重な資料もあるらしい)。 			

③協議中に出た意見（続き）

- ・山岳会の解散にあたり、長年の功績に対し、感謝の意を表する場を設けなくて良いのか。

(2) 意見書作成の準備について

- ・米山山頂施設及び登山道の維持管理に対する令和8年度の市の予算編成を考えると8月の地域協議会で意見書案を提出する必要がある。
- ・今までの委員会での協議内容を考えると意見をまとめるのは難しい。
- ・産業グループもまだ見積もりが取れていない。
- ・無理して期限を決めない方が良いのでは。ボランティアを募る目途が立ってからの方が良い。
- ・委員各自、意見を整理して臨んだ方が良い。

2 第8回会議の開催日程

- ・日時 7月 日（未定）
- ・会場 柿崎コミュニティプラザ 3階
- ・内容 意見書案の検討

以 上

団体との懇談会 結果報告書

1 班

1	団体名	子育て中のお母さんグループ
2	開催日時	7月1日(火) 午後1時30分～3時
3	会場	柿崎コミュニティプラザ 4階 和室
4	出席者名	団体：6人 地域協議会：7人
5	主な意見	<p>意見を5つに分類した。</p> <p>(1) 子どもの遊び場がほしい(特に小児)</p> <p>(2) 産前・産後のケアを充実させてほしい</p> <p>(3) 会社のサポートと会社がサポートしやすい環境づくりを充実させてほしい</p> <p>(4) 保護者に対して、新しくできる保育園や小学校の統合について、定期的に情報がほしい</p> <p>(5) その他</p> <p>分類別の意見は次のとおり。</p> <p>(1) 子どもの遊び場がほしい(特に小児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柿崎区には、近所にオーレンプラザや市民プラザのような子どもセンターがない。片道30分以上の時間をかけて、幼い子を連れて行くのは一苦労。 ・土日に開いている遊び場がない(柿崎第一保育園は、土日にやっていない) ・体を動かせるかどうかは、寝つきの良さに関係するので、近場(柿崎区)に遊び場がほしい。 ・遊具がある公園などが無い。ブランコがあっても、草木が生い茂り虫が出るので利用できない。 ・未就園児から小学生くらいまで、皆が自由に遊べる公園等を新設保育園周辺に作ってほしい(できれば東屋など日陰も作ってもらえると非常に助かる)。 ・じゃぶじゃぶ池程度の小さい子が遊べる安全な水遊び場がほしい。 <p>(2) 産前・産後のケアを充実させてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科を専門とする医院がない(市街地にしかない)。せめて、旧中頸城郡内に一つあれば助かる。定期的に他院の小児科医師が、例えば一週間に一度、出張診療のようなことはできないか?

(主な意見の続き)

5 主な意見

- ・産後ケアホテルや、それに準拠する施設がほしい（体と精神が休まる空間がほしい。病院は、条件が厳しい）。
 - ・産後ケアホテルは高額（1泊5万円ほど?）。
 - ・妊婦さんも子育て広場が使えるようにしてほしい。
 - ・産休が取得できる34週以前のケアも手厚くした方が良いと感じている（正直24週からきつい）。
 - ・病児保育ができる施設がほしい。小児科と同様で、ただ診察して、薬を出せばよいだけでなく、専門的な知識でサポートしてほしい。
 - ・ベビーシッター制度（こども家庭庁の制度?）があり、子育て世代のサポートとして、とても助かるのに上越市はPRが弱いと感じる。
 - ・仕事にかかりっきりで育児に関われない、心理的なハードルが高い、お父さん同士が交流できる場所がほしい。情報交換できるようになると助かる。
- (3) 会社のサポートと会社がサポートしやすい環境づくりを充実させてほしい
- ・男性が育休を取得するための環境づくりをしてほしい。制度はあっても、申請しにくい心理的ハードルがある。
 - ・在宅ワークなどもできるように子育て環境を整えてほしい。
 - ・制度を積極的に利用できる環境づくりを行う会社に対して、市はサポートをしてほしい。
- (4) 保護者に対して、新しくできる保育園や小学校の統合について、定期的に情報がほしい
- ・保育園の建設予定地の安全性が心配（交通量や車のスピード等）。
 - ・現在、柿崎区にある4つの保育園は、それぞれに特色ある「お散歩コース」がある。新しくできる保育園は、国道8号が近く、海にも山にも遠いので、今までよりも利便性が下がるのではないか。
 - ・保育園や小学校の移転に関する進捗状況が分からないので、定期的に情報提供してほしい。
 - ・統合先の小学校は、修繕ではなく新築してほしい。古い施設をその都度修復しても、古くて使いにくいうえ、児童が物を大切にっていないとの話も聞いている。教育的にも良くないのではと感じる。
 - ・統合する小学校の学年の一部が荒れていると聞いており不安。
 - ・吉川区のように保育園、小学校、公園がひとまとまりになっていると利便性が高いと感じる。

(5) その他

- ・柿崎ふれあい音頭が踊れない児童、生徒が多い。保育園や小学校、中学校等で踊る意味があるのか。
- ・職場が忙しすぎて、子育て情報が取得できない。
- ・上越市に移住する夫婦は、夫（柿崎区出身）、妻（他地域）の組み合わせが多いと感じる。移住の際、妻が確認することは、その地域の子育て支援、子ども関連施設・医療の充実さなど。これらを強化することは、子育て世代を上越市に呼び込む大きな要因となりえる。
- ・小学校統合後、旧校舎を災害時の避難所として機能させてほしい。その際は、女性と子どもが過ごしやすい環境を整えてほしい。
- ・統合後の各地の旧校舎や旧園舎を地域の子どものために開放できないか？校庭や園庭にある遊具を残したり、増設したりして地域の子どもたちが車なしでも遊びに行ける場所がほしい。
- ・旧上越市でやっている「こどもの家」事業があるとうれしい。自分が小学生のころは、学校近くの公民館で放課後、地域のご老人が折り紙や竹とんぼ作りなどを教えてくれる機会があったように思う。学童に馴染めない子や、学童も留守番も微妙な年ごろの子のために、常設でなくて良いので開催できないか。

自主的審議事項のテーマ（案）